



H.16.1月台東区ニューイヤーズトーナメントで優勝しました。

中学生の軟式野球の指導一筋28年、井上俊夫さん(53)は現在3つのチームの監督で、そのチームのメンバー総勢123人の大所帯を率いている。中学生チーム「小平クラブ」が91名、高校生以上の女子チーム「東京ウイングス」が18名、そして中学女子チームの「ウイングス・ジュニア」15名。伝統ある「小平クラブ」は東京都屈指の実力チームで、全国大会でも常に上位の成績を収めている。

井上さんは早稲田高校野球部で外野手として活躍。その後は家業に勤しむかたわら草野球を楽しんでいたところ、小学生の軟式野球チームのコーチを頼まれた。「根っからの子ども好き」と自認する

中学生の野球指導 ただひとすじに



中等軟式野球「小平クラブ」監督
井上 俊夫さん

井上さんは「自分でプレーするよりも、教える方が面白い」と感じるようになった。「小学校卒業後も同じチームでやりたい」という子どもたち同士の希望をかなえるため、中学生のチーム「小平クラブ」を結成。1976年のことだった。
Jリーグブームの頃は入部者が激減することもあったが、現在の部員数はこれまでで最も多いほど。小平だけではなく、近隣の東村山や清瀬、国分寺、中には立川から

1時間半自転車をしてやってくる頼もしい女子部員もいるそうだ。「野球が好きなら誰でもおいで。なるべく上手じゃない子に目をかける」のが主義。「上手な子はほっといても伸びますから。ほっといちゃいけない子をいかに続けさせるか、目標を持たせるようにしています」。全国大会出場などの時は勝つためのチーム編成をするが、他の大会の時は皆が試合に出場できるように、チーム内に数チームつくっている。現在開催中の北多摩少年野球春季大会には同クラブから4つのチームが参加している。
入部してくる中学生もさまざま。勉強も得意な子、苦手な子、野球をやったことがない子。「勉強が嫌いな子には『好きな野球をするために、嫌いな勉強をやらないさ』と言います。勉強もスポーツもやらされてるのはダメ。大きな声がだせる子、道具を片付ける子、みんなチームの役に立つ子なんです」。20年以上も前、中学が荒れた時期があった。選手の中に番長がいて、相手チームにけんかを吹っかけていた。入った高校を中退し、働きながら専門学校を卒業。バスの運転手になり、40歳になった現在は同じ会社の重要なポストに就いた……といううれしい報告が入る。
目をかけ、声をかけることで子どもたちは伸びてゆく。良かった

ことだけほめ、傷ついたことには触れない。「さらに責めると子ども逃げ場がなくなりますから。親の方にもそのことを頼んでいませう」。指導者には「忍耐と演技力」が必要だという。ピンチの時はここに顔、怒ってなくても怒ったふりを……中学生の野球指導はやりがいがあります。

練習は小平市内あちこちのグラウンドを借りて、水、土、日と週3回のペースで実施。3月半ばの水曜日、強風のため砂塵が舞う天神グラウンドでの練習を覗いてみた。広いグラウンドが狭くみえるほどの選手の数。チームに分かれてキャッチボールや守備練習中。皆が皆、澆刺として楽しそうなのが印象的だ。部員の父親などコーチが20名いるが、サラリーマンが多いため、水曜日はほとんど二人で選手たちをみる。「子どもの表情をすぐに取り、読み取り、声かけてくださる。監督への信頼度は担任の先生以上です。ずつとボランティアでみていただいて、ただただ頭が下がります」と見学中のお母さんたち。
夢は教え子の子どもたちが入部して、二代にわたって指導すること。とことん子どもたちを愛する姿勢に、野球を超えた大きな教育力を感じた。こんな素晴らしい指導者を持つ地域の子どもたちは幸せだ。

(小平市在住)